

●近畿建設協会「地域づくり・街づくり」の発表会

3月23日に開催されました。里山の会も魚とりやカヌー体験の成果を披露しました。開会挨拶で近畿整備局の企画部長から近年の豪雨災害はかつての災害防止基準の1.5倍から1.7倍に大きく激しくなる見通しだ。また河川協力団体の果たしている役割が強調されました。

●2021年度の木津川希少種植生調査管理業務の検査完了 3月25日

淀川河川事務所で実施されました。これは40カ所で16000㎡にある絶滅危惧植物の維持管理業務で除草作業の実施結果や生育調査の結果報告を書類にまとめ、またすべてCD化して提出した業務の完了検査で里山の会から大村理事長と太田・播川理事そして山村常務理事が出席し、監査官の調査課長の田中優太氏の質問に答えました。約1時間で承認されました。

●京田辺市河原の馬坂川のゴミ拾いを実施 3月26日

この日は前日から降水確率100%の天気予報にもかかわらず8名の皆さんが雨合羽を着て参加していただきました。コロナが発生する3年前まで毎年実施していましたが、コロナ禍で2年間2回にわたって清掃活動を中止してきたので、2年分のゴミが溜まっていて、拾い集めたゴミの量は凄い物で、ペットボトルや飲料水の缶がほとんどで450のゴミ袋4杯が満杯になりました。この馬坂川では1週間後にきれいに咲き誇った桜並木の下でEボートやカヌーで花見を予定しているので清掃を行ったのです。

●親子花見乗船体験で使用する乗降場を設置 3月29日

川の水面まで高さが約3mの斜面に階段を取付け、水面すれすれにEボートやカヌーへの乗降足場を設置するものです。この日は天気がよく、並木の桜も一挙に咲き始めました。まさに七分咲きの状態になりました。このままの気温が続くと満開になり開催当日には花筏になってしまうのではないかと予想する勢いでした。しかし翌日は花冷えがあって満開への時間稼ぎがありました。この日の設置は3年ぶりのことで、組み方をすっかり忘れてしまって、播川さんが用意していただいた前回の写真が大変役立ち、かなり手順良く作業が進みました。

●フィランソフィー協会から里山の会に活動資金の寄付をするからと連絡があり、世の中にそういったことがあるのか半信半疑で、請求される書類を提出いたしました。内容は①川のゴミ清掃 ②親子花見乗船体験—ふるさとまつり、③カヌー体験、④昆虫観察会、⑤ホテルの集いと里山音楽会、⑥イタセンパラの生息ワンド周辺の草刈り、⑦水中ドローンの購入で生息確認、を提示しましたところ、承認されました。振り込み先の口座を報せとなりました。半信半疑でしたが事が本当になりました。この寄付金の資金提供先企業はゆうちょ銀行だということです。ありがたいことで事務局一同大きく感謝申し上げることにいたしました。

●6月30日の14時からイタセンパラ放流依頼のために、大阪市生物多様センター

福井波恵、森島保、金田徹、太田敏之、播川保さんと大村理事長がお願いに伺いました。以下の依頼文章を提出しました。

イタセンパラの放流のお願いについて

前回のお話有難うございました。貴重な長い時間大変お世話になりました。

その後里山の会として地元井手町に管理者集団を結成しようと手を尽くしてきましたが、まだ作り上げることは出来ていないのが残念です。しかしワンド周辺の雑草刈りなどに努めてきました。ま

た生育環境調査も少しずつ前進しています。何よりもワンドにトンガリササノハガイが多数発見され、一定の生育環境が存在しているものと判断できました。よってワンドへの放流する条件がありますのでぜひ放流試験を行いたいと意気込んでいます。

本日伺ったのは、放流が可能でありますので出来るだけ早く実現させていただきたくお願いに参りましたよろしくお願いいたします。

また別ルートからもお話があって、そのルートからの放流にもご理解を頂きますようお願いいたします。其れは京都水族館が種（成魚）を譲りうけ二世を誕生させたのちに、木津川に水族館が放流するというものです。是非ともこのルートも取り上げていただきますよう重ねてお願いいたします。

2022 年 3 月 30 日 やましろ里山の会 理事一同

●親子花見乗船体験へのメールでの参加申込者は 29 日現在 24 世帯 82 人

大勢の申し込みがありました。E ボート乗船人員は前と後ろの船頭役を除くと乗客は 8 名です。1 回のルートを一回りに 20 分を要しますからかなりの時間を要します。ライフジャケットを装着し説明等の所要時間もありますので、落ち着いてゆっくり行動してください。また一般道路を使用しなければならないので交通安全にも注意をはらってくださいね。駐車場も用意していますが、狭いのでご注意ください。できれば民間駐車場をご利用頂けると安心です。特に川での取り組みですので濡れること覚悟で、着替えなどの準備も大切ではないでしょうか。当日参加の方は申込者優先での対処になりますので、ご理解をお願いいたします。

●里山の会では安全第一と考え、受付業務に伊藤さん ライフジャケット装着指導に福井さん、金田さん、そして乗船指導に太田さんと摂南大学生さん、交通整理を播川さん、先導役に森島さんと摂南大学生さん、カヌー指導に木津川マラソン実行委員会の大植さんと要員 2 名で体制を組みました。いずれにしても十分なものではありませんので、参加者の方の積極的で自主的で無理のない運営にご協力を強くお願いします。これらの皆さんはすべて無料のボランティアとしてご協力をお願いし、快く協力を表明された方々で運営をするものです。ご理解の上ご協力を重ねてお願いします。

●ヤマトサンショウウオの卵のう、成体の観察

先月（2 月中）にヤマトサンショウウオの成体 2 匹と卵のう 3 対確認し、3 月中にも卵のう 12 対、成体 1 匹の確認があり、今年の合計は卵のう 15 対、成体 5 匹（京大学生 2 匹確認を含む）の確認となりました。昨年に比較して少ないですが 4 月に入ってから確認が望まれるところです。

●年度末には活動報告書の作成が無くては大変な大作業です。特に里山の会は助成金によるイベントが多く作業は大変です。有田さんと森さんには京都府交響プロジェクト交付金による 7 つの事業報告書のまとめをお願いし連日遅くまでお世話になっています。またトヨタからの助成金 99 万円の報告書は太田さんが済ませました。2 年に渡ってコロナ渦での活動でしたので随分知恵が必要でした。同時に次期申請書の記入も進めなければならないので、非常に複雑です。これか里山の年間計画や会誌 52 号の作成も推進しなければならない時期になっています。先日京田辺市で NPO の弱点は事務能力の引き上げだと強調されました、全くそのとおりだと思います。会員の皆様のご協力を切にお願いいたします。

●楽しい活動、 楽しくする活動、楽しくさせる活動 に取り組んでください。

みんなで受け身から働きかける側に成長をお願いします あなたの行動力に期待しています